

◇ 光 岳

2018年8月26日(日)～28日(火)

岡本単独

1日目： 猛暑続きの中、気晴らし光岳へ向かう。現在、易老度口は北又度の手前までしか車が入らず、畑薙ダムから行くことにした。午前3時、自宅出発、新東名島田金谷 IC を出て大井川鉄道沿いに大井川を遡って行く。狭い処も残っているが、道は大分良くなっており、ICから約2時間で畑薙ダムに着く。そこからゲートの沼平まで行くが、ラッキー！、駐車スペースが十分ある。シーズンは満車のことが多く、ダム手前の臨時駐車場に駐めざるを得ないことが間々ある。おまけに、井川観光協会のマイクロバスの予約の人が来なかったため、茶臼登山口の吊橋までただで乗せて貰え、二重にラッキー！ 幸先の良いスタートである。

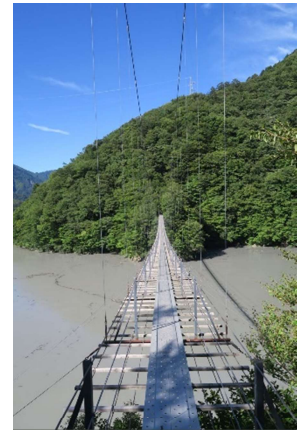
畑薙湖に掛かる100m以上は有りそうな吊橋を渡ると急な坂道が続く。ヤレヤレ峠まで行き、ここから今登った分を下りダム湖に流れる支流の沢に出る。激しい流れの沢だが、心地良い風もあり爽快な気分だ。沢沿いをトラバースしながら4つの吊橋を過ぎるとウソッコ沢小屋に着く。



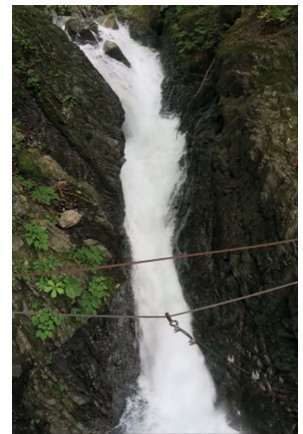
(最初の沢吊橋)

小屋を過ぎると直ぐに滝のように流れる、迫力満点の滝のような上河内沢に掛かる吊橋に出る。そこを渡ると標高差約450mの斜面をよじ登るような急登が続く。1時間程登り続けると「中ノ段」だ。ここで一息つき、更に登り続けるが、勾配は若干緩やかになり、登り切るとトラバースルートのような道を行くと横窪峠だ。樹林帯の隙間から茶臼岳が見え、そこから沢へ下り、吊橋を越えると横窪小屋だ。

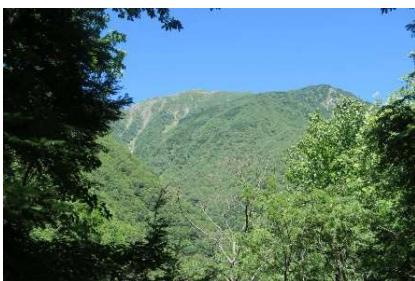
小屋に着くと管理人のおじさんが冷たいお茶を持ってきてくれた。一息つき、昼食とする。ここから茶臼小屋まで標高差約800m、危ない箇所は無いが、急な坂道が続く。樹林帯と、標高や風もあり、さほど暑くないので助かる。景色はあまり見えないので、ただひたすら登り続けるだけだ。急な坂が終わりトラバースコースに入ると景色が開けてくる。この辺りまで来ると灌木帯となり、徐々に視界が開ける。と、角を曲がると突然茶臼小屋が見える。小屋の横の水場には湧き水に冷やされたビールがあり、正面に富士山も見える。富士山を眺めながらゆっくりビールを味わう。小屋も空いていて畳一畳以上のスペースをもらいゆっくりと休む。



(畑薙大吊橋)



(上河内沢越えの吊橋)



(横窪峠から茶臼山)



(横窪沢小屋)



(茶臼小屋)

(行程) 8:30 登山口→9:00 ヤレヤレ峠→10:00 ウソッコ沢小屋→11:35 横窪小屋→13:50 茶臼小屋

2日目： 天気は快晴、ご来光は前の山とそこに掛かる雲のため今一つだ。5時半、小屋を出発。10分ほどで尾根に出る。風が強くゴアの上を纏う。天気もよく、眺望も素晴らしく、朝日を受け、一気に茶臼岳山頂まで行く。山頂は360度の大パノラマで、上河内岳、聖岳、兎岳の展望が素晴

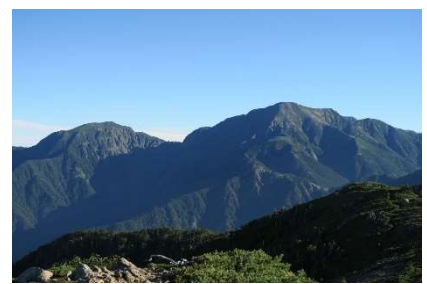
らしい。時間にも余裕があるので、ゆっくり景色を楽しむ。



(茶臼小屋から夜明けの富士)



(茶臼山山頂)



(茶臼山から聖岳と兎岳)

山頂から少し下ると地糖があり、暫く木道道が続く。7月頃だと高山植物が咲き誇っているイメージではあるが、今は探さないと見えない程度だ。途中、希望峰から仁田岳へ寄る。茶臼岳以上に眺望は良く、寄ってみる価値のある場所だ。希望峰に戻り尾根を行くと、いつの間にか易老分岐に着く。山頂は直ぐ近くのようなのだが、樹林帯の中で行く気もせず、分岐で休憩を取る。



(仁田岳から上河内岳・聖岳・兎岳)



(易老分岐)

易老分岐から三吉平までダラダラ道が続き、意外に長く感じる。そこから暫く行くと涸れ沢の岩のゴロゴロした急登に入り、静高平まで標高差約300mを一気に登る。静高平に近づくとお花畑らしいところに出るが、今はトリカブトラしき花意外はあまり咲いていない。水場に出ると、「この水が出る時は光小屋で水は分けない。」と書いてある。空いているペットボトルに水を入れイザルヶ岳分岐まで行く。この辺りはなだらかな高原状で、中々気分が良い。荷物を置いてイザルヶ岳へ向かう。この山頂も360度のパノラマで、前に見える樹林帯の平凡な小山(光岳)に比べると余程良い。景色を楽しんだ後光小屋へ行く。



(イザルヶ岳からの富士山)



(イザルヶ岳から聖岳方面)



(イザルヶ岳から光岳)

小屋に荷物を置き、弁当とお茶をぶら下げて光岳へ行く。眺望もなく、ただ大きな標識だけある山頂に着く。近くの展望所に行くが、前が見えるだけの何の変哲もない場所だ。昼食を済ませ光岩に向かう。これまた何処にでも有るような岩で、たまたま周辺が樹林帯なので、光の反射具合で白く光ったのかもしれない。が、あまり見るに値しない感じだ。小屋に戻り生ぬるいビールを飲んで休む。人が少なくゆったりと寝れた以外は特に何とすることも無い小屋だ。



(光小屋)



(光岳山頂)



(光岩)

(行程) 5:30 小屋→6:00 茶臼岳→6:40 希望峰→5:55 仁田岳→7:15 希望峰→8:25 易老分岐→
9:30 三吉平→10:30 静高平→10:50 イザルヶ岳分岐→11:00 イザルヶ岳→11:20 光小屋

3日目：今日は天気良ければ上河内岳まで行き、茶臼小屋に泊まる予定であった。が、朝から強風と霧雨状態だ。途中も霧雨とガスと強風だけで、天気回復の兆しもない。上河内岳と茶臼小屋分岐に出るが変化なく、仕方なく下山する。



茶臼小屋に着くと少し視界が開け、ガスも風もない。まだ9時半なので、小屋で様子を見るには時間が余り過ぎるので、予定より一日早い下山することにした。途中、少し小雨交じりになり、最後の吊橋に入ったところで強い俄雨となるが、雨具を出すわけにも行かず、ずぶ濡れになり橋を渡り切る。登山口の井川観光協会のバス停で雨宿りをして、ちょうど来たバスに乗せてもらい、林道歩きをせず、無事車止めの沼平に着く。

猛暑を心配していたが、林道歩き無し、木陰+風と、思いの外快適に歩けた。最終日を除き、天気も良く、展望ポイントでは久々に南アルプス他の眺望も楽しめ、中々良かったです。ただ、光岳自体は、凡庸な、不思議百名山の一つという印象でした。

(行程) 5:30 光小屋→7:05 易老分岐→8:20 希望峰→9:05 茶臼岳→9:25 茶臼小屋 (25分休) →
10:55 横窪小屋→12:00 ウソッコ沢小屋→12:55 ヤレヤレ峠→13:20 吊橋登山口